



## 認知症について (その2)

前回の認知症とは何かという話に続き、今回はその分類と治療についてお話しします。  
現在の医学では、認知症の多くは一度発症してしまうと、症状の進行を遅らせることはできても治療は困難です。  
しかし、中には治療可能な認知症もあります。  
認知症は、早く発見・治療することで、患者さんや家族の運命が大きく変わる病気です。

Text by 欧州日本人医師会 中西眞理 医師／神経内科（日本支部）

### + 2つに分類される認知症

#### ①原因の治療や予防ができる認知症

脳血管性認知症やアルコール性認知症、慢性硬膜下血腫、甲状腺機能低下症、ビタミン欠乏、正常圧水頭症などによって起こる認知症

#### ②現在の医学では原因の治療が難しい認知症

アルツハイマー性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症など

例えば①にある脳血管性認知症は、血圧や血糖値の管理や高脂血症の治療などで、ある程度の予防が可能で、リハビリで回復が見込めることもあります。しかし多くの場合は、長年にわたって脳の機能が失われた結果として発症し、回復できない段階に至るため、やはり発症前の予防が最も重要となってきます。

### + どのように治療する？

慢性硬膜下血腫は、頭を打った後にできた血腫が脳を圧迫して起こるので、血腫を取り除く手術を行って治療します。甲状腺機能低下症とビタミン欠乏は、甲状腺ホルモンやビタミンの補充によって回復することがあります。アルコール性認知症は、アルコールによる脳細胞の変化や偏った栄養状態が原因で起こるため、断酒や健康的な食生活、ビタミンなどの補充といった方法で回復する可能性があります。正常圧水頭症は、脳内の脳脊髄液の循環が悪くなり拡大した脳室が周辺の脳を圧迫して起こるため、脳脊髄液を他のところに流す手術によって治療します。しかし、予防治療が可能なこれらの病気も、脳の機能障害が固定し元に戻らない状態まで進むと、治療をしても完全には回復しなくなりますので、早期発見が肝心です。

### + どうすれば予防できる？

日本やヨーロッパで最も多いアルツハイマー性認知症は、残念ながら原因が完全には解明されていないので、予防や治療が難しいのが現

状です。しかし近年は研究が進み、加齢、遺伝的因子、外傷、高血圧、心疾患、糖尿病、高コレステロール、脳卒中の既往などがアルツハイマー型認知症発症の危険因子であることが特定されています。

加齢と遺伝は人間の力では変えられないとしても、健康な食生活を心掛けることで予防できる可能性があります。また、見過ごされがちな原因として、安易に乗れる電動自転車の運転があります。反射機能が衰えている高齢者の転倒事故が多発しているので、乗車の際は、ヘルメットを被るなど頭を保護することが大切です。

高齢者がうつ病になると、一見認知症のような症状が見られることがあります。この場合、うつ病の適切な治療をすれば完全に回復します。

周囲の人間が医療機関の受診を勧めるのは簡単なことではありません。とはいえ、「身体の病気やうつで物忘れが出ることもあるらしいから、一度診てもらいましょう」といった話の進め方をする事で早期に対処すれば、治療の可能性を高めることができるのです。

### 欧州日本人医師会 電話無料健康相談のご案内

(ご注意：診察ではありません)

欧州9カ国、20名余りの非営利団体に属する日本人医師が、海外赴任や旅行など慣れない海外生活での医療に関する、無料の健康相談を行います。

#### ● 健康相談日時：月～木曜日

(ヨーロッパ中央時間)	月・水・木曜日	21:00 - 22:00
	火曜日	22:00 - 23:00
(イギリスおよび	月・水・木曜日	20:00 - 21:00
アイルランド)	火曜日	21:00 - 22:00

#### ● 電話番号：+49 9951 9493 399

※この電話番号は相談専用電話のため、上記の時間以外には使えませんのでご注意ください。

無料健康相談担当医師一覧は以下のサイトでご確認ください。

<http://www.eu-jp-doctors.org>